●令和４年（2022 年）の日本の地震活動

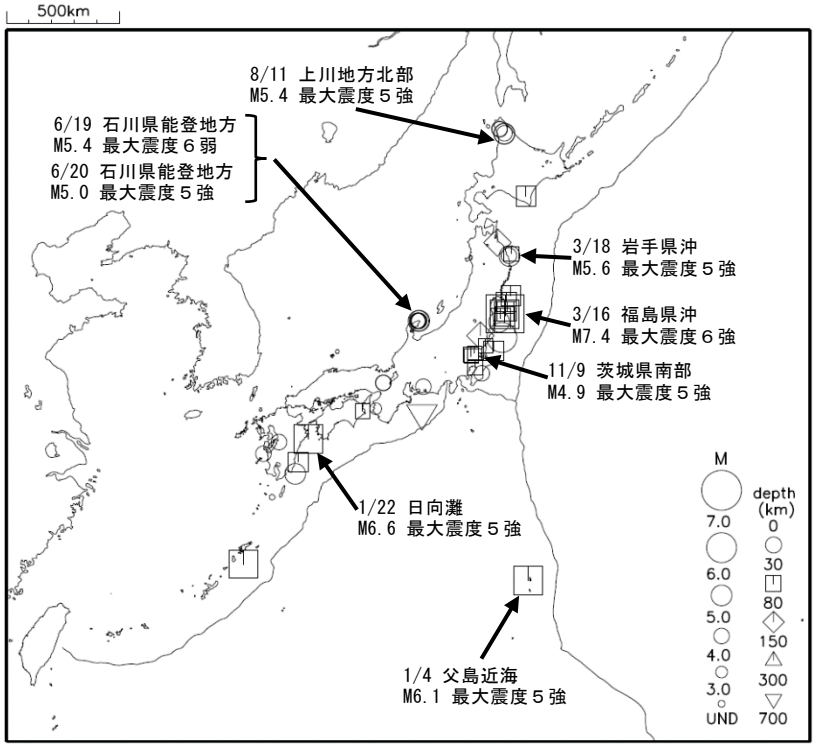


図１　2022 年に最大震度４以上を
観測した地震の震央分布図
最大震度５強以上を観測した地震に矢印をつけた

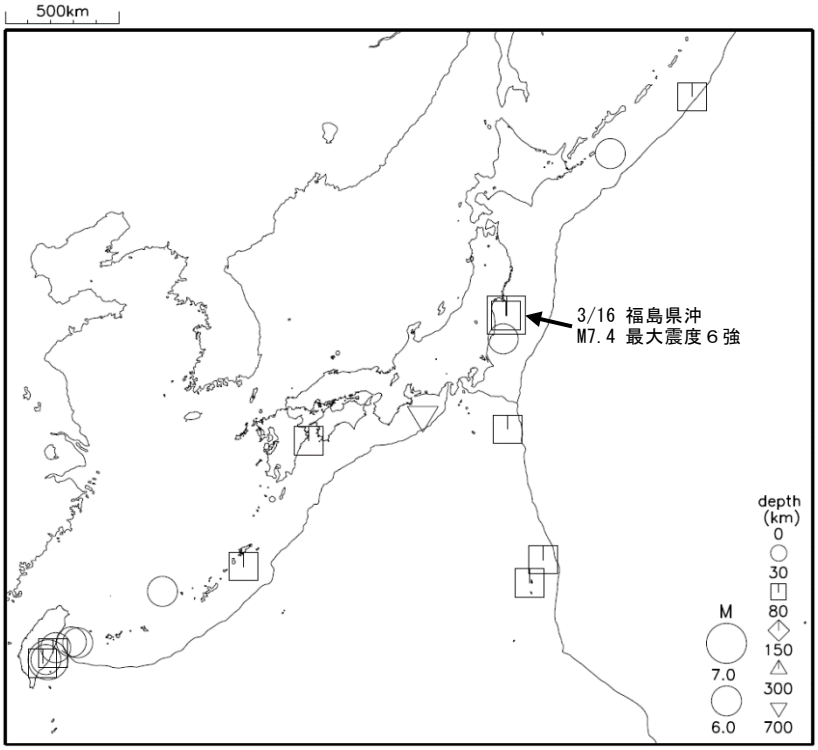


図２　2022 年に発生した
M6.0 以上の地震の震央分布図
2022 年中で最大規模の地震に矢印をつけた

［概況］

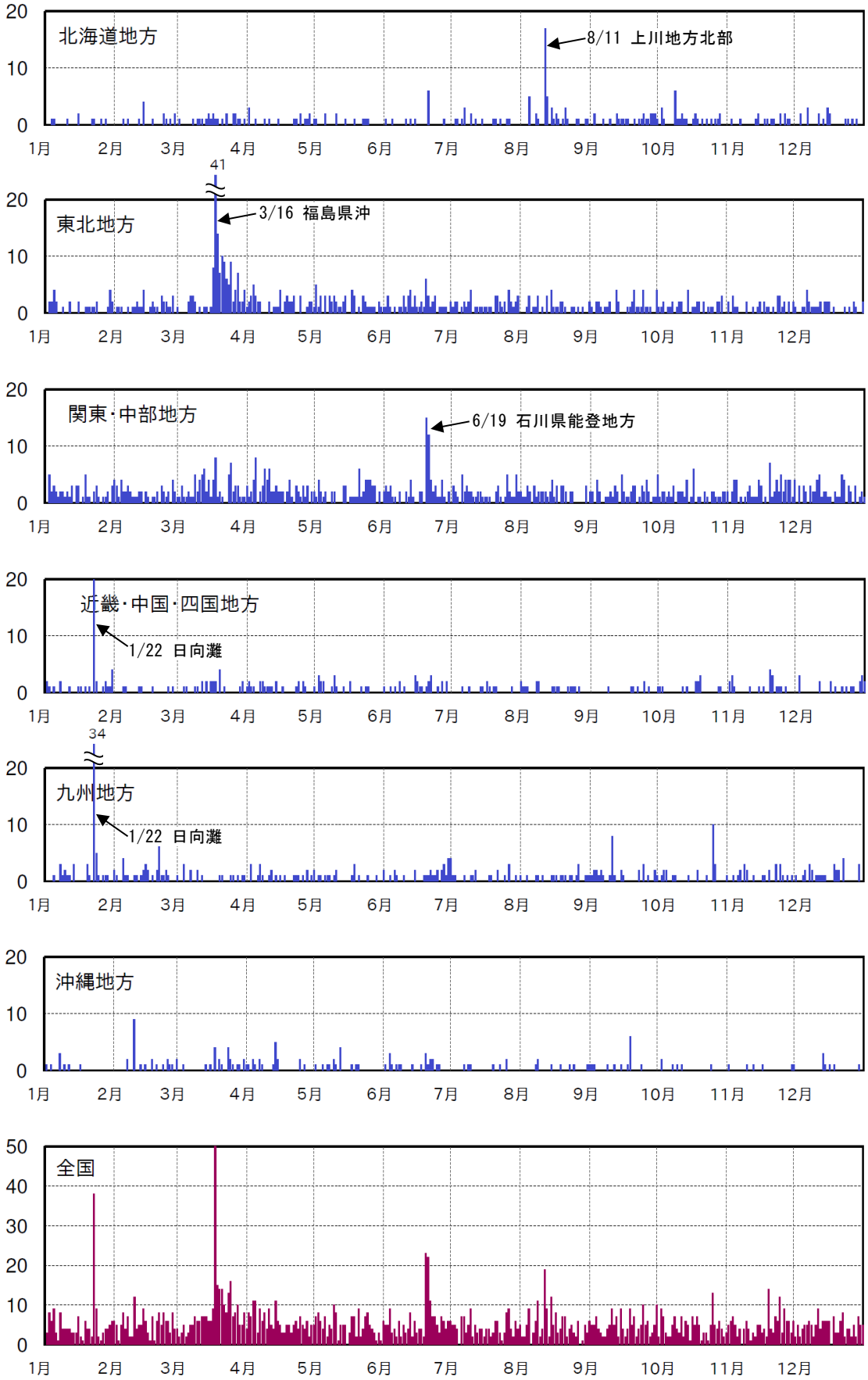
2022 年に国内で被害を伴った地震は７回（注１）（2021 年は７回）発生した。このうち、死者・行方不明者を伴った地震は、３月 16 日に福島県沖で発生した地震（M7.4）の１回であった（2021 年は１回）。

震度１以上を観測した地震は 1,964 回（2021 年は 2,424 回）、最大震度４以上を観測した地震は 51 回（2021 年は 54 回）、最大震度５弱以上を観測した地震は 15 回（2021 年は 10 回）であり、2022 年中に観測した最大の震度は、３月 16 日に福島県沖で発生した地震（M7.4）で観測された震度６強であった（図１）。

M6.0 以上の地震は 19 回（2021 年は 20 回）発生した。過去 104 年間の地震回数の中央値が 16 回であることから、ほぼ平均的な発生回数であった（図４）。2022 年中で最大規模の地震は、３月 16 日に発生した福島県沖の地震（M7.4）であった（図２）。

日本で津波を観測した地震（海外で発生した地震を含む）は、３月 16 日に福島県沖で発生した地震（M7.4）の１回であった（2021 年は２回）（図４）。そのほかに、１月 15 日（日本時間）のフンガ・トンガーフンガ・ハアパイ火山の噴火により潮位変化が観測された。また、大津波警報、津波警報、津波注意報の発表をした地震は、３月 16 日に福島県沖で発生した地震（M7.4、津波注意報）及び９月 18 日に台湾付近で発生した地震（M7.3、津波注意報）の２回であった。

（注１）６月 19 日 15 時 08 分及び同月 20 日 10 時 31 分に発生した石川県能登地方の地震並びに８月 11 日 00 時 35 分及び同日 00 時 53 分に発生した上川地方北部の地震については、生じた被害がどちらの地震によるものか区別できないため合わせてそれぞれ１回として扱った。



2022 年の１年間に最大震度４以上を観測した地震回数（最大震度別）

最大震度	回数
4	36
5 弱	7
5 強	6
6 弱	1
6 強	1
7	0
合計	51

図３　2022 年に震度１以上を観測した日別回数（全国及び各地方別）
　６つの地方（北海道地方、東北地方、関東・中部地方（三重県を含む）、近畿・中国・四国地方、九州地方及び沖縄地方）に分割した。

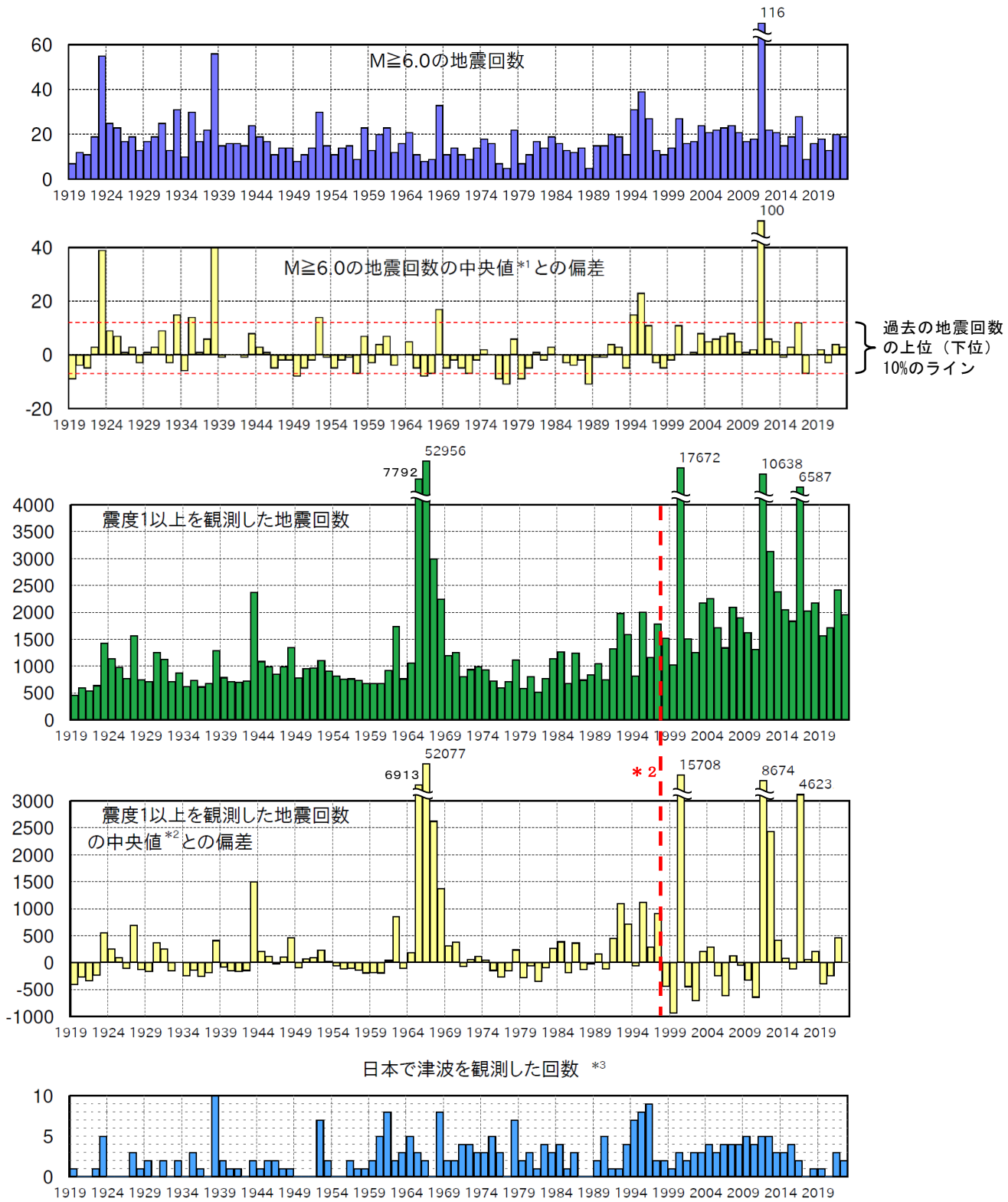


図４　全国のM≧6.0及び震度１以上を観測した地震の年別回数、津波を観測した年別回数（1919－2022年）

＊１　M≧6.0の過去104年間（1919～2022年）の中央値は16回／年であった。

＊２　震度１以上を観測した地震の回数を比較するにあたっては、近年、震度観測点が増えたことを考慮する必要がある。ここでは、地方公共団体の震度計のデータを活用開始した時期（1997年11月）を考慮し、1998年を区切りとして、その前後で各々中央値を求めて比較した。なお、中央値からの偏差が大きい1965～1967年には松代群発地震、2000年には新島・神津島の地震活動、2011年には「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」、2016年には「平成28年（2016年）熊本地震」が発生している。

＊３　海外で発生した地震及び火山噴火による潮位変化を含む。集計には、験震時報、気象庁技術報告、その他気象庁が取りまとめた資料の他、Iida(1984)、渡辺(1998)を利用している。また、過去の津波を観測した地震回数については、津波の観測点数や観測手法等が異なるため、各年代をそのまま単純比較することはできないことに留意する必要がある。

Iida, Kumizi(1984)：Catalog of tsunamis in Japan and its neighboring countries, Aichi Institute of Technology, 52 p.

渡辺偉夫(1998)：日本被害津波総覧（第二版），東京大学出版会,236p.